

## ヒアリングから得られた具体的な取組みに向けた検討の視点

**基本的な視点1** 世田谷区の特徴を活かした教育・保育の推進  
世田谷区がこれまで取り組んできたことばの力の育成や外遊びを一層充実するなど、世田谷区の特徴を活かした取組みを進めます。

【取組み例】 「ことばの力」の育成、「体力向上」の推進  
「外遊び」の推進 等

**視点** 外遊びの施設・場所へのニーズ

【現状】 外遊びをさせたいが適切な場所が近所がない地域もある。  
おでかけ広場はよい施設だが、アクセスしにくいエリアもある。 保護者

【現状】 プレパークはよい施設だが、自宅から遠く、日頃から行けない人もいるのもっと数が増えるとよい。 保護者

**視点** 早期教育の提供という誤解への対処

【現状】 保育園・幼稚園ともに、園での早期教育を求める保護者が増えている。 幼 保

【現状】 周囲には幼児教育の大切さを早期教育の必要性ととらえている保護者もいる。やっている子どもが多いからだろう。 保護者

【意見】 このビジョンで区が取り組もうとする幼児教育・保育がいわゆる早期教育と誤解されることは、保護者や子どもにとって望ましくない。 保護者

**基本的な視点2** 乳幼児期における教育・保育の充実  
子ども一人ひとりに特性に応じ、乳幼児期における教育・保育の充実を図っていきます。

【取組み例】 乳幼児一人ひとりの特性に応じた教育・保育の充実  
配慮が必要な乳幼児に対する対応の充実 等

**視点** 家庭における乳幼児教育・保育の理解

【現状】 子どもの接し方・応答の仕方が分からずに困っている保護者が少なくなく、周囲の子どもと比較して不安になる傾向がみられる。 幼 保

【現状】 子どものことを考えるとき、自分が主語になる保護者や、他の子どもや家庭と比較する保護者が増えているように思う。 幼 保

【現状】 2歳まで家庭で子どもを育てる保護者は不安を感じがちだ。そのなかで所属感を求めて習い事をさせるケースもあるようで、育て方に自信が持てないようだ。 保護者

【意見】 保護者にはノウハウ以前に、子どもの生きる力を信じること、「よい子に育てたい」というシンプルな思いを持つことの大切だ。 幼 保

【意見】 体験入園で、自分の子どもが他の子どもといっしょにいる姿や、担任のふるまいを見てもらえると気づくこともあると思う。 幼

【意見】 迂遠だが、小中学生のころから子どもに触れる機会をつくとよいのではないかと。 保

**視点** 配慮が必要な子どもに対する保護者の理解

【意見】 専門家が巡回する事業は助かる。幼児教育アドバイザーは園と単発でなく中期的に関係を持ち、取組や対応の改善への継続的な助言・支援をしてもらいたい。 幼 保

【意見】 園では現場での対応はできるが、限定的にならざるを得ない。保護者が子どもの状態を理解し、適切な対応をとるよう、園長・担任が保護者とのコミュニケーションのなかで理解・対応を促すしかない。 幼

**基本的な視点3** 保育者等の資質及び専門性の向上  
公私立幼稚園・保育所等と連携し、職員個人のみならず施設全体の専門性の向上に向けた取組みを進めます。

【取組み例】 保育者等研修制度の体系化やキャリアパス制度の設計  
公開保育などによる保育者等研修制度の設計 等

**視点** 研修への参加のしやすさ

【意見】 幼児教育センターで研修を行っても、アクセスしにくい園も多いので、地区ごとに研修を開催するか、来園してもらえれば参加しやすい。 保

**視点** 各園の状況・ニーズの研修への反映

【意見】 園の規模や受入年齢によって必要な研修内容は異なるので、受講対象を絞り込み、参加者によって効果的な研修を検討してもらいたい。ニーズ・現状の把握が必要だ。 保

【意見】 家庭的保育・小規模保育では研修はほとんどないのではないかと。保育を支える人たちに研修を行ってもらいたい。 保

【意見】 現状の研修は個々別々に行われている印象がある。研修内容のレベルを分け、体系化する必要がある。そのためには0～6歳までの発達に基づいて保育活動を体系化しないと行けない。 保

**視点** 経験の浅い職員に対する研修のあり方

【現状】 若い職員は、職に就くまで子どもに接する機会がないため、対応が分からなくなっている。子どもの反応から学ぶようにトレーニングする必要がある。 幼 保

【意見】 経験の浅い職員には、子どもを預かり、育てるという自覚を芽生えさせることから始めるべき。「誇り高き専門職」を育てたい。 保

【意見】 技術・知識よりも精神性・人間性が重視される職業なので、その点を伸ばす努力をしている。 幼 保

【意見】 研修は体験を通じて実践的なノウハウを学べるとよい。そのノウハウを園でやってみて、子どもの反応を確認しながら成長することで保育士のおもしろさを感じられる。 保

【意見】 通信教育で資格を得た保育士は園での研修を受けないため、インターンのような機会を設けられると採用しやすくなるのではないかと。 保

**視点** 中堅職員の不在と育成の必要性

【現状】 経験の浅い職員が多くなっているなか、中堅職員がいない組織になっており、運営が難しい。 幼 保

【意見】 主任やリーダークラスの職員を育てるための研修が必要だ。そういった研修があればキャリアパスが意識でき、若い職員の離職も減るのではないかと。 幼 保

**視点** 園長のマネジメント能力の向上

【意見】 研修が受講しにくいという意見は、マネジメントが研修の重要性を認識していないからではないかと。 保

【意見】 現場職員から園長になる過程でマネージャーとしてのスキルや視点を学ぶ機会がないので、マネジメントの研修が必要なのではないかと。 保

**視点** 職員の確保の機会

【意見】 私立の園は求人をしていても求職者が来ない。大学と連携したインターン受入や区立園と私立園が連携した求職（情報提供等）を提供するなど協力してもらいたい。 幼 保

基本的な視点4 幼稚園・保育所(施設)・認定こども園・小学校の連携  
世田谷区がこれまで取り組んできたことばの力の育成や外遊びを一層充実するなど、世田谷区の特色を活かした取組みを進めます。

【取組み例】 情報共有や相互理解の促進

「(仮称) 幼児教育・保育情報連絡会」の設置  
アプローチ・スタートカリキュラムの普及・促進 等

**視点** 保育と教育の対話の場

【意見】 幼稚園と保育園では異なる点もあるが、だからこそ共有できる方針をいっしょにつくっていく必要がある。 保

【意見】 幼保連携にあたっては、中立的な立場で仲介する人が必要だ。大学教員のほか、地域貢献に関心のある区民にもかわってもらえるとよい。 保

【意見】 既存の保育ネットを活かし、保育園同士のコミュニケーションから幼稚園にも参加してもらえるようにしたい。 保

**視点** 小学校からのアプローチの必要性

【意見】 校長・副校長は来園して子どもの様子を見ているが、担当教員こそ来園してもらいたい。 幼 保

**視点** 子どもの育ちを一貫してサポートするための連携

【意見】 子どもは愛着が形成され、安心感を得ていないと、規範性は受容できず、成長における課題を抱えがちだ。 保

【意見】 子どもがピンチに陥ったときに周囲の大人が気づくべきであり、その際にその子がどのように育ってきたのかというルーツ・情報を共有し、必要なケアをする必要がある。そのためにも園や学校、家庭が連携する必要だ。 幼 保

**視点** アプローチカリキュラムと5歳児ならではの体験の関係

【意見】 保護者会でアプローチカリキュラムについて話し合ったとき、積極的にやってもらいたい人とそうでない人に分れた。自分は進学後に慣れればよいと考えており、5歳ならではの時間を過ごすことも大事だ。 保護者

【意見】 実感として幼稚園の子どもは大人数の集団生活を体験しているのか、慣れているように思う。保育園、特に小規模な園は学校と連携できるとよい。 保護者

**視点** 区立保育園との連携・支援

【意見】 私立保育園は職員も限られており、また園庭などの環境面も十分でない園もあるので、公立保育園のリソースを活かした支援を考えられないか。 保

【意見】 看護師が常駐していない小規模保育園もあり、近隣の区立保育園によるサポートがあると助かる。 幼 保

**視点** ビジョンの方針等の周知・共有

【意見】 ビジョンで示された方針や考え方が公立・私立、幼稚園・保育園を問わず共有されていくことが望ましい。 保

【意見】 難しいことだと思うが、園や学校だけでなく、児童館、産後ケア、母親学級など、子どもにかかわるあらゆる施設や取組に、このビジョンの考え方が浸透していくとよいと思う。園・学校だけが育ちの場ではないので。 保護者

ビジョンの具体化に向けて

**視点** 幼稚園・保育園・行政のコミュニケーションの活性化

【意見】 教育の立場と保育の立場で対話をしていることが重要だと思う。ビジョンを具体化していくための場としても、いまの対話の場を継続して設けてもらいたい。 保 保護者

【意見】 行政とのつながりを園長は求めている。行政も努力してくれているが、円滑に園長と行政職員とのコミュニケーションも活性化していけるとよい。 保

基本的な視点5 家庭・地域の連携

家庭教育への支援を充実するとともに、地域全体で子どもを見守り、子育て家庭を支える取組みを進めます。

【取組み例】 家庭教育の支援

幼稚園・保育所等および保護者等による  
ネットワークづくり 等

**視点** 愛着形成期の保護者への支援

【意見】 愛着形成期に子育てに悩み、愛情を注げなくなるケースがある。特に0～2歳を家庭で育てている保護者は孤立し悩みがちなので、つながるきっかけが必要だ。 保護者

【意見】 母親学級や産後ケアなどの学習機会はあるが、子育てに対する期待よりも不安を持たせるものになっていないか。子どもの生きる力を知り、実感できるような機会提供をしてもらいたい。 保護者

【意見】 愛着の形成は第一には母親が担うものだが、母親が十分な愛情を注げるよう、孤立させず、不安や心配を持たないようにすることは地域や社会で取り組むことではないか。 保護者

【意見】 家庭で十分に愛情を注げるように、またそうでない家庭をケアできるように、保育園、さらには行政としてサポートする仕組みをつくるべきだ。 保

【意見】 保護者向けの機会はあるが、知られていないのではないか。量を増やすことよりも、機会があることを知らせることが必要だ。引きこもりがちな保護者でも必ず行く、スーパーや商店に協力して情報発信してはどうか。 保護者

**視点** 子どもが安心感を得られる場所の必要性

【意見】 家庭で安心感が得られない場合には、地域や社会で見守り、安心感を育む必要がある。 保

**視点** ビジョンの方針等の保護者への周知

【意見】 幼児教育が大切なことは情報として耳にしているが、具体的なことが分からない保護者もいる。非認知的能力もメージしにくいので、このビジョンが分かりやすく伝わると、保護者も実践しやすいのではないか。 保護者

【意見】 妊娠期から幼児教育や保育について情報を届けるようにすることで、浸透する可能性は高まるのではないか。結婚する前の独身期からでもよい。必要な情報を、その前段階から周知できるとよい。 保護者

幼児教育センターについて

**視点** 拠点性ととも、地域への展開も必要

【意見】 幼児教育センターにアクセスしにくい地域も多いので、アドバイザーが来園するかたちで研修や助言をしてもらえるとよい。 幼 保

**視点** 幼稚園・保育園がいっしょに考えるための場

【意見】 ビジョンの具体化を図るためにも、幼稚園・保育園双方が参加し、一緒に考え、何かをやってみて、検証する場として幼児教育センターが機能するとよい。 幼 保

**視点** 幼稚園・保育園の情報提供

【意見】 園を選ぶ際には子どもがどう育ってほしいかという視点から考える必要があり、そのためには園の情報が必要だ。センターで情報発信をしてもらえると保護者は助かり、結果的に子どもがよい環境を得られる。 幼